

# 令和8年度 八王子市立松が谷小学校 学校経営計画

八王子市立松が谷小学校 校長 沓澤 広明

## 1 学校教育目標 「げんきで なかよく がんばる子」

### 2 目標の具体的な児童像

- 元気な子（体）
  - ・明るく活発で個性を伸ばそうとする子
  - ・心と体の健康づくりに主体的に取り組み、たくましく生きる子
- ◎仲良くする子（徳）
  - ・自ら考え判断し行動できる人間性豊かな子
  - 【重点目標】
    - ・自他を尊重し、思いやりの心をもって共に生きようとする子
- がんばる子（知）
  - ・自ら考え判断する力を伸ばし、自分の意思を表現する子
  - ・自己発揮・自己実現しながら粘り強く取り組む子

※大切にしたい松が谷っ子の4つの心

「**ま**じめな心」「**こ**よい心」「**か**んばる心」「**さ**さしい心」

### 3 目指す学校像

#### ～子供も大人もウェルビーイング(Well-Being)な学校～

- 子供たちや教職員が、毎朝、友達や同僚に会うことを楽しみにする学校
- 保護者が、我が子を本校に通わせて良かったと心の底から思われる学校
- 地域の方々が、松が谷小を誇りに思い、行ってみたいくなる学校

※ウェルビーイング (Well-being) …身体的・精神的・社会的に良い状態、持続的な幸福な状態

### 4 目指す教師像

#### ①サービスの厳正

- ・報告・連絡・相談の徹底
- ・学期ごとに服務規律に関する研修の実施
- ・校内での言動、時間厳守など社会人としての基本的マナーの確認と共通理解の徹底
- ・管理職による定期的なヒアリングやセルフチェックシートの活用で自己点検を促進

#### ②人権意識の醸成

- ・人権教育に関わる研修の実施（いじめ、差別、ハラスメント対応など）
- ・教職員同士の対話を通じた職場内の人権意識の向上

#### ③心理的安全性の確保

- ・職員室を「教師同士が自由に意見を交換し、建設的なフィードバックを提供し合う環境」にする
- ・教室も「自分の考えや意見を自由に言い、失敗を恐れずに挑戦できる環境」にし、子供たちの心理的安全性を確保する
- ・情報は対面で正確に伝え、文字だけのやり取りによる誤解を防ぐ

#### ④教育のプロとしての自覚

- ・教育研究・授業研究の奨励（校内公開授業・研究授業の積極的参加）
- ・市・都の研修への積極的参加（自己申告時に研修計画の提出を徹底）
- ・振り返りと自己評価を通じた成長サイクルの確立

#### ⑤互いに協力し補完し合う教師集団

- ・学年や教科でのミーティングの実施 役割分担と情報共有を明確に
- ・指導案や教材の共有化 先輩教師によるメンター制度の活用（初任者への積極的指導）
- ・「お礼・称賛・支援」の声かけを意識する職場風土の醸成
- ・積極的に学校運営に参画

#### ⑥児童の安心・安全を第一に考えた対応

- ・早期発見・早期対応・丁寧な初期対応（怪我・物損は必ず即時保護者へ連絡）
- ・対応後の経過報告を忘れずに行う
- ・危機管理マニュアルの定期見直しと訓練（避難訓練、不審者対応など）の形骸化防止
- ・児童の変化に早く気づく観察力と組織的対応（情報の横断的共有）
- ・教室環境の整備（教卓・机の整理整頓、黒板、下駄箱等）
- ・ホームアンドスクールの欠席確認を徹底

#### ⑦児童一人ひとりを愛し、創意ある教育

- ・個別最適な学びを意識した指導（習熟度別対応・ICT活用など）
- ・児童理解のための会議の活用、定期的な家庭との連携と情報共有

#### ⑧地域・保護者との連携

- ・地域行事（地域清掃・地域音楽祭・わくわくランド・焼き芋の会など）への積極的参加
- ・来校者には積極的に挨拶を！
- ・学校便りや学級通信、ホームページによる定期的な情報発信

### 4 今年度の基本方針と具体的な方策

#### ◆確かな学力の育成

##### ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全教科にわたる言語活動・観察・問題解決的な学習の質を向上させる。
- ・思考の可視化・対話を重視した意見交換によって協働的に問題解決を図る能力を育成する。
- ・「めあて→ふりかえり→次へのつなぎ」の学習サイクルを日常化する。
- ・八王子市学力定着度調査等をもとに、定着・活用・探究の各段階を明確に意図した指導を行い、授業改善を図る。

##### ○探究的な学習過程の重視

- ・「問いを立てる」→「調べる」→「まとめる」→「伝える」過程を意識した授業づくりを行う。
- ・総合的な学習の時間・生活科・特別活動を中心に探究的な学習過程を重視した授業改善を進める。
- ・単元末のプレゼンテーションや発表の機会を設定し、自己有用感・達成感を高める。

##### ○一部教科担任制の実施

- ・6年生における教科担任制の実施（理科と社会）し、専門的な指導を充実させる。

##### ○学習用端末の活用とICT活用指導力の向上

- ・ICT活用担当を校務分掌に位置付けてOJTを実施し、教員のICT活用指導力を向上させる。
- ・一人1台端末を基礎学力の定着・意見交流・調べ学習・プレゼン資料作成等に活用する。
- ・松が谷中グループで義務教育9年間を見通したICT活用能力を育成する。
- ・情報活用能力の育成を視野に入れ、教科の特性に応じた効果的な活用方法を研究する。

##### ○校内研究の推進

- ・令和8年度の校内研究テーマのもと研究授業を実施し、全教員による授業改善サイクルを確立する。

## ◆豊かな心の育成

### ○自尊感情を育む教育活動

- ・児童一人ひとりの良さや努力を認め伝える活動を日常的に実施する。
- ・学級活動や道徳の時間を通じて、成功体験を積み重ねられるような活動を計画的に行う。
- ・「思いやりたっぷりたっぷり」活動を年間を通じて継続・発展させる。

### ○異学年交流の推進

- ・年間を通じたたてわり班活動・たてわりスペシャル、全校遠足等で学年をこえたつながりを育む。
- ・高学年がリーダーシップを発揮できるよう事前指導や振り返り活動を充実させる。
- ・松が谷フェスティバル・交流給食等を通して、心身の調和と個性の伸長を図る。

### ○いじめを生まない、許さない学校づくり

- ・「学校いじめ対策委員会」（毎週月曜日）での情報共有と全校的な指導体制を継続する。
- ・「子ども見守りシート」を活用し、家庭からの情報を常に共有できるようにする。
- ・いじめ防止のための授業を年間3回以上実施し、「傍観者をつくらない」意識を醸成する。
- ・SNS 松が谷小ルールをもとに情報モラル教育を徹底し、SOS の出し方教育を年間1回以上実施する。
- ・毎週の生活指導夕会（スクールカウンセラーも参加）で全教員が児童の様子を共有する。
- ・「八王子市いのちの大切さを共に考える日（6月）」を全校で取り組む。

### ○不登校児童への支援

- ・「つながるプラン」に基づき、関係機関・医療機関等との連携と情報共有を図る。
- ・授業のオンライン配信・適応指導教室等、状況に応じた多様な学びの場を確保する。
- ・個票システムを活用し、登校支援コーディネーター・SC・SSW・関係機関と連携を深める。
- ・学習用端末や家庭訪問等を活用し、学校とのつながりを維持していく。

### ○障害や性、文化等の多様性への理解

- ・道徳や総合的な学習の時間等において、多様性理解を深める指導を行う。
- ・日本語指導が必要な児童への支援体制を整備し、全教職員で情報を共有する。
- ・「生命（いのち）の安全教育」を児童の発達段階に応じて体育科・特別活動・道徳等で行う。

### ○児童一人ひとりに応じた指導と環境整備

- ・ティームティーチングや個別指導を充実させ、安心して過ごせる居場所づくりを推進する。
- ・指導の基準・方針を全教職員で共有し、一貫性のある対応を行う。
- ・トラブル時の保護者への丁寧な報告・連絡を徹底する。

### ○小学校動物飼育推進校としての取組（令和8・9年度の2か年）

- ・継続的な動物飼育の取組を通して、「動物愛護」の心を培う教育を推進し、児童に「生命の尊さ」を理解できるようにする。
- ・専門的な知識をもった獣医師等と連携し、体験等を通して継続的な動物飼育を円滑に実施していく。

## ◆健やかな体の育成

### ○運動環境の整備と体育指導の充実

- ・校庭・体育館の運動用具を整備し、児童が日常的に運動に親しめる環境を充実させる。
- ・一昨年度までの校内研究の成果を踏まえた指導案の共有と活用を推進する。
- ・全ての児童が運動の楽しさを実感できるよう、体育授業の工夫と個人差への対応を充実させる。

### ○運動の日常化・習慣化

- ・松が谷オリンピック（体力調査）を効果的に活用し、体力向上の取組を継続する。
- ・朝・休み時間の運動活動（長縄旬間・持久走旬間など）を継続して実施する。

## ○食育活動の推進

- ・給食管理員と連携した「食育メモ」の活用や食に関する授業を実施する。
- ・家庭との連携を視野に入れ、児童が主体的に望ましい食生活について考える機会を充実させる。

## ◆特別支援教育の充実

### ○そよかぜ学級の交流・共同学習の推進

- ・合同授業や学校行事で協働活動する場面を設定し、共生社会の実現をめざす。
- ・松が谷中学校の特別支援学級との交流会を継続して実施する。

### ○ひだまり教室との連携強化

- ・担任とひだまり教室教員との連携を強化し、月曜日放課後に情報共有の時間を確保する。
- ・連絡帳の手渡しを徹底し、対面での情報共有を確実に行う。
- ・学校生活支援シート・連携型個別指導計画を活用して家庭と連携し、指導の効果を通常学級に波及させる。

### ○専門性の向上と全校体制

- ・全教員が特別支援教育の基礎的知識を習得した上で、経験年数に応じた研修を実施する。
- ・外部講師を招いた研修会や特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を充実させる。
- ・デジタル機器の効果的な活用とユニバーサルデザインの視点での教室環境の工夫を行い、合理的配慮を推進する。
- ・日本語指導が必要な児童への支援体制を整備する。

## ◆キャリア教育の充実

### ○キャリア教育の全体目標「社会的自立に向けた実践的態度の育成」

- ・小中一貫校グループの3校で「キャリア教育」を推進し、「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を有効活用する。
- ・学校と家庭が連携して子どもの育ちの軌跡に対話的にかかわり、キャリア形成の改善を支援する。
- ・生活科・総合的な学習の時間・特別活動等において、地域との自然・商店街・幼稚園児・高齢者とのかかわりを通して望ましい職業観・勤労観の素地を養う。

### ○地域教材の開発と活用

- ・老人ホームとの関わりを復活させ、地域の高齢者との交流を通じて共感力の育成を図る。
- ・松が谷商店街「フラット」とのつながり・東京都埋蔵文化センターなどを活用した地域教材を開発する。
- ・地域人材を活用しながら、児童が自分の良さや将来について考え伝える力を育む。

## ◆家庭・地域との連携

### ○地域との協働推進

- ・学校運営協議会及び青少年対策松が谷地区委員会との協働を推進する。
- ・地域行事（地域清掃・地域音楽祭・わくわくランド・焼き芋の会など）に積極的に参加し、学校外での児童の様子を把握する。
- ・挨拶運動・清掃活動・地域パトロール等を通して、松が谷地区における健全育成を図る。

### ○小中一貫教育の充実（松が谷中グループ）

- ・「小中一貫教育の日」を中心に授業体験・合唱祭参観・はちおうじっ子サミット準備等を行う。
- ・「学力定着プロジェクトチーム」で学力定着度調査の分析をもとに授業改善研修（6月・2月）を行う。

- ・生活指導・特別支援・人権教育の分科会を定期的を開催し、児童・生徒の情報を共有する。
- ・グループ3校の学校運営協議会・保護者・青少対等と連携した健全育成を推進する。

#### ○保幼小連携の推進

- ・学区の保育園・幼稚園・学童・児童館等と連携し、架け橋プログラムの具現化に組織的に取り組む。
- ・近隣保育園・幼稚園と情報共有する意見交換会を年2回実施し、スタートカリキュラムを充実させる。
- ・児童と園児の交流活動を継続して実施する。

#### ○松が谷高校との連携

- ・松が谷高校での1・6年生によるたけのこ掘りや、毎月1回の高校生による放課後英語授業を継続する。

#### ○情報発信の充実

- ・学校・学年だよりやホームページ等で本校の教育活動の情報発信を充実させる。
- ・学校評価結果の改善状況を保護者に可能な範囲でお伝えし、開かれた学校運営に努める。
- ・行事の目的・意図をより丁寧に説明し、月予定の早期共有を継続する。

### ◆安心・安全な学校づくり

#### ○安全教育の充実

- ・避難訓練（年間11回）・セーフティ教室・薬物乱用防止教室・交通安全教室・自転車安全教室等を計画的に実施する。
- ・「生命（いのち）の安全教育」を実施し、性犯罪・性暴力への対応力を育てる。

#### ○服務事故防止の徹底

- ・体罰・不適切な言動・交通事故・個人情報漏洩等の服務事故防止研修を学期ごとに実施する。
- ・報告・連絡・相談の徹底を行い、組織的なチェック体制を強化する。

#### ○教育活動の情報発信

- ・学校・学年だよりやホームページ等で本校の教育活動の情報発信の充実を図る。